

育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー測定尺度の開発研究

○ 鹿児島純心女子大学 井上 祐子(4758)

姜 民護(同志社大学・8570), 高橋 順一(地域ケア経営マネジメント研究所・8413),

黒木 保博(同志社大学・長野大学・979)

キーワード: 育みたい資質・能力, コンピテンシー, 尺度

1. 研究目的

職業能力の客観的評価の一つとして、評価や予測、誤差を除いた因果の検討に必須となる内容的妥当性や構成概念妥当性を備えたコンピテンシー測定尺度を用い、エビデンスに基づく知見を蓄積することは肝要である。尺度の開発過程に関する先行研究では、内容的妥当性と構成概念妥当性を十分に備えていると判断された、保育者を対象とするコンピテンシー測定尺度は見当たらなかった(井上ら 2021)。そこで本研究は、保育の質の向上に職場内で取り組むための示唆を得ることをねらいとして、育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー測定尺度を開発し、その妥当性と信頼性を検討することを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、A 県にある認可保育所及び幼保連携型認定こども園 581 カ所において、5 歳児クラスの担任をしている保育者を対象とし、郵送法による質問紙調査を実施した。調査内容は、基本属性(性別、年齢、勤続年数等)と「育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー(29 項目)」で構成した。分析では、まず育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシーを『知識及び技能の基礎』『思考力、判断力、表現力等の基礎』『学びに向かう力・人間性等』からなる 3 つの資質・能力」と操作的に定義し、3 因子二次因子モデルを仮定した。その後、天井効果を検討した。最後に、因子構造の側面から見た構成概念妥当性は、確認的因子分析にて検討した。適合性の判定には、適合度指標 RMSEA と CFI を採用し、パラメータの推定は重み付け最小二乗法の拡張法(WLSMV)を採用した。なお、分析には SPSS Statistics 22.0, M-Plus7.2 を使用した。統計解析には回収された 316 人の調査票のうち、回答に欠損を有さない 297 人のデータを使用した。

3. 倫理的配慮

本研究は、鹿児島純心女子大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号「倫令元年-2 号」)。本発表は、共同研究者からの発表承諾を得て実施する。

4. 研究結果

29 項目の天井効果を検討し、天井効果が見られた 14 項目を削除した。なお、天井効果が見られたが、項目内容を考慮して削除しなかった項目が 7 項目あった。これにより、15 項目を分析対象とした。回答分布は表 1 に示す。確認的因子分析による 3 因子二次因子モデルの適合度は RMSEA が 0.088, CFI が 0.939 であり、cronbach's α 信頼性係数は 0.865 であった。また「育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー」から「知識・技能の基礎を育む保育者のコンピテンシー」「思考力、判断力、表現力等の基礎を育む保育者のコンピテン

シー」「学びに向かう力・人間性等を育む保育者のコンピテンシー」への因子負荷量はそれぞれ 0.930, 0.837, 0.866 であった。「知識・技能の基礎を育む保育者のコンピテンシー」から各項目への因子負荷量はそれぞれ 0.785, 0.739, 0.766, 0.752, 0.674, 「思考力, 判断力, 表現力等の基礎を育む保育者のコンピテンシー」から各項目への因子負荷量はそれぞれ 0.654, 0.861, 0.784, 0.693, 0.822, 「学びに向かう力・人間性等を育む保育者のコンピテンシー」から各項目への因子負荷量はそれぞれ 0.667, 0.738,

0.689, 0.525, 0.618 であった(図 1)。

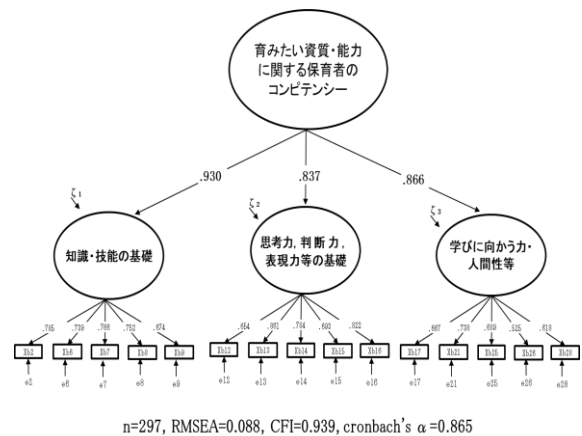


図1 育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー測定尺度の構成概念妥当性(標準化解)

表1 育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー測定尺度の回答分布

	回答カテゴリ				単位: 名 (%)	
	していない	どちらかといえ ばしていない	どちらかとい えばしている	している	平均値	標準 偏差
知識及び技能の基礎						
xb2 安全な生活に必要な習慣に気付くように援助する	0 (0.0)	3 (1.0)	125 (42.1)	169 (56.9)	3.56	0.52
xb6 身の回りに様々な人がいることに気付くように援助する	1 (0.3)	12 (4.0)	143 (48.1)	141 (47.5)	3.43	0.59
xb7 季節の変化を感じるように援助する	0 (0.0)	6 (2.0)	124 (41.8)	167 (56.2)	3.54	0.54
xb8 文字を使う意味に気付くように援助する	4 (1.3)	75 (25.3)	149 (50.2)	69 (23.2)	2.95	0.73
xb9 交通標識の意味に気付くように援助する	11 (3.7)	103 (34.7)	137 (46.1)	46 (15.5)	2.73	0.76
思考力, 判断力, 表現力等の基礎						
xb12 身近にある材料を使って, 自分のイメージを表現するように援助する	1 (0.3)	42 (14.1)	168 (56.6)	86 (29.0)	3.14	0.65
xb13 したいこと, してほしいことを言葉で表現するように援助する	0 (0.0)	91 (30.6)	205 (69.0)	1 (0.3)	3.70	0.47
xb14 感じたこと, 考えたことを動きで表現するように援助する	5 (1.7)	110 (37.0)	137 (46.1)	45 (15.2)	2.75	0.73
xb15 感じたこと, 考えたことを音で表現するように援助する	22 (7.4)	158 (53.2)	99 (6.1)	18 (6.1)	2.38	0.71
xb16 感じたこと, 考えたことを言葉で表現するように援助する	2 (0.7)	5 (1.7)	146 (49.2)	144 (48.5)	3.45	0.57
学びに向かう力, 人間性等						
xb17 進んで運動するように援助する	0 (0.0)	11 (3.7)	117 (39.4)	169 (56.9)	3.53	0.57
xb21 自分の力で行動することの充実感を味わうように援助する	0 (0.0)	16 (5.4)	142 (47.8)	139 (46.8)	3.41	0.59
xb25 自然現象に関心をもつように援助する	0 (0.0)	20 (6.7)	151 (50.8)	126 (42.4)	3.36	0.60
xb26 動植物に触れる体験をもつように援助する	2 (0.7)	35 (11.8)	140 (47.1)	120 (40.4)	3.27	0.69
xb28 友達の声を聴きながら歌うことを楽しむように援助する	3 (1.0)	31 (10.4)	145 (39.7)	118 (39.7)	3.27	0.69

注: %は, 四捨五入のために100%にならない場合がある。

5. 考察

本研究では, 育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシー測定尺度の妥当性と信頼性を検討した. 3 因子二次因子モデルのデータへの適合度は, RMSEA = 0.088, CFI = 0.939 であり, cronbach's α 信頼性係数は 0.865 であった. このことは, 育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシーの仮定した因子構造モデルがデータに適合したことを意味している. すなわち, 下位に 3 因子, 「知識・技能の基礎を育む保育者のコンピテンシー」「思考力, 判断力, 表現力等の基礎を育む保育者のコンピテンシー」「学びに向かう力・人間性等を育む保育者のコンピテンシー」を備えた, 育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシーの概念を数量化することの根拠が支持された. 育みたい資質・能力に関する保育者のコンピテンシーの構造が理論的枠組みに基づくことが検証されたため, これを基礎に, 保育における職業能力の客観的評価や研究に活用していくことが望まれる.

文献

「職業人としての基礎能力の育成におけるコンピテンシー測定尺度の開発過程に関する批判的論評」井上祐子・高橋順一・姜民護・黒木保博『鹿児島純心女子大学国際人間学部紀要』27,2021,pp.25-51.